

令和5年度 第5回京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会会議録

1 開催日時：令和5年10月17日（火）15時00分～16時30分

2 開催場所：京丹後市役所大宮庁舎 4階 第2・3会議室

3 出席者：

浅井 智美 委員

井上 知英 委員

今度 義則 委員

岩本 悠 委員

岡田 泰行 委員

古賀 稔邦 委員

高橋 一也 委員

竺沙 知章 座長

長井 悠 委員

中川 哲 委員

牧野 光朗 委員

ヤング 吉原麻里子 委員

塩川 達大 オブザーバー

田中 努 オブザーバー

(欠席者)

荻 弦太 委員

田茂井 勇人 委員

事務局：

京丹後市副市長

濱 健志朗

京丹後市教育委員会 教育長

松本 明彦

京丹後市 市長公室長	川口 誠彦
京丹後市教育委員会事務局 教育次長	引野 雅文
京丹後市市長公室 政策企画課長	松本 晃治
京丹後市教育委員会事務局 学校教育課長	川村 義輝
京丹後市教育委員会事務局 教育総務課長	西村 隆

#### 4 議 事

- (1) 学校づくりアンケート回答結果の集約及び分析について
- (2) 魅力ある府立高校づくり推進基本計画（仮称）について
- (3) 財源確保及び行政体制の在り方について
- (4) 遠隔教育特例校制度の申請状況について
- (5) その他

#### 5 公開又は非公開の別 公開

#### 6 傍聴人 0名

#### 7 要旨

教 育 長：こんにちは。本日は第5回京丹後市新たな教育人材育成の在り方に関する検討会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。特に遠方からご出席いただきました牧野委員、長井委員、笠沙座長におかれましては厚く御礼申し上げます。またオンラインでご参加の皆様本当にありがとうございます。ヤング先生におかれましては時差がある中出席いただいていることにも感謝いたします。

早いもので5回目ということで、今回は中間まとめとして、皆様からご意見いただいたものをまとめさせていただいたところですが、いよいよ今回含めて残り2回の中で、最終まとめまで辿り着きたいと思っていますところですが、皆様から毎回忌憚のない、知見あふれるご意見をいただいているところですが、今回の議題の、学校づくりアンケートの結果ですとか、今後連携していく上で不可欠となる京都府教育委員会の教育の今の方向性等について、まと

めていけたらと思っておりますので、短い時間ですけれども本日もどうぞよろしく願いいたします。

座長：皆さんこんにちは。今日もどうぞよろしく願いいたします。議事に入る前に、事務局から報告がございます。8月に、Kyotango Sea Labo という事業が開催されました。この検討会で議論していただいた内容と関係しますので、その映像をご覧いただき、様子を共有できたらと思います。事務局からよろしく願いいたします。

事務局：（事務局より説明）

座長：ありがとうございました。いろいろと議論したいところですが、時間がありませんので、お1人から意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員：素晴らしいプログラムであるなと拝見いたしました。最後の方に地域の産業界の方々とのパートナーシップを言及されていたと思うんですが、地元の方々の方から何かフィードバックがあったのか、もしありましたらお聞かせいただきたいなと思います。

事務局：まだいただけてないので、今後分析を行っていきたいと思っております。

委員：ぜひ楽しみにしております。

座長：私もその場にいさせてもらったんですけど、地域の方々はみんな本当に「良い、頼もしい」ということをおっしゃっていて、非常に熱く語っておられたのが印象的でしたので、すごく良い、可能性のある取組になっているのではと思いました。また来年も開催されますので、もし良かったら、委員の皆さん方も参加していただいてもいいかなと思いました。ありがとうございました。

それでは議事に入らせていただきます。まず、議事の1、学校づくりアンケートにつきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

#### （1）学校づくりアンケート回答結果の集約及び分析について

事務局：（事務局より説明）

座長：ありがとうございました。

私の方から確認ですけれども、この結果は、事務局だけで分析されたのか、

学校の先生方もご覧になった上で意見を求める機会があったのでしょうか。

事務局：学校にはまだ示しておりません。指導室だけの分析となっておりますので、後日、各校長会に結果を説明に伺いたいと思っていますところでは。

座長：ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

委員：学校の先生方の姿勢に関係するような項目が、ニーズとしてより高く出ているなという分析がありまして、なるほどと思いました。逆の部分は何だろうと思って見ていたんですが、外国語教育は、平均以上ではありながら一番平均値は低く、自由記述もないという結果で、具体的な教科といますか、内容についての生徒さんの好みも出ているのかなと思いました。それと同時に生徒さんが直感的に思って取捨選択するものと、一方、市としての意向を持って提供するものもあると思いますので、スコアの乖離があっても提供していくものに対して、どうコミュニケーションしていくと生徒さんにスッと最終的に受けとめていただけるかが変わってくるなと思いました。

座長：ありがとうございました。この結果を踏まえて、生徒さんたちとのコミュニケーションをどう取っていくか、その中でどういう教育が必要かっていうのを一緒に考えていけばいいんじゃないかというご意見だったかと思います。他にいかがでしょうか。

委員：教育委員会の先生方がおまとめになられたこの資料を見まして、先生方の真摯な取組が、資料の分かりやすさから伝わってくるようで感銘を受けております。

資料の中に、子どもたちに主体性を身につけてもらい、学びの変革を本当の意味で起こすためには、関係者全てが主体性を持って取り組んでいかなければならない、という文言が入っていたんですけれども、教育委員会の先生たちが生徒さんを相手に、自分たちで理想的な学校をつくるとしたら、あなたたちはどんなものが欲しいと思うかと、彼・彼女たちの声を聞こうというアンケートだったわけですね。そういった学校・教育委員会のお取組こそから、生徒さんたち保護者の方たちが、大きく学んでおられるのではと思います。関係者全てが主体性を持って取り組んでいくという、非常にわかりやすい事例になっていると思いました。必要なステップを先生方は既に実施されておられると感じました。

私はシリコンバレーに長く住んでいるのですが、こちらでは特に私学を中心に、先端的な研究成果を学校のカリキュラムに組み込んでいこうという取組がよくみられています。そのような取組をしておられる学校の学長さんがこうおっしゃいました。「私たちは21世紀の新しい学びとはどうあるべきかを、毎年毎年、真摯に話し合ってきています。できる限り先端の研究結果を取り入れながら、私たち自身で実験をしているのです。実験は必ずしもうまくいくとは限りません。今年もまたカリキュラムが変わったのかと、生徒からうんざりするような声も聞かれています。結果がうまくいか保証はないけれども、少なくとも私たちが教育者として、失敗を恐れず新しいことに取り組み続けているという姿から生徒が何か大切なことを感じ取ってくれていると信じています。」その言葉が保護者だった私の心に残っています。まさにそういった取組をこの京丹後の先生方が実行されているんだと私は感銘を受けましたし、エールを送りたいと思いました。ありがとうございました。

座長：ありがとうございました。こういうアンケートを取って、どんな学校をつくりたいかを問いかけたことの意味をご発言いただいたと思いますし、教育をするとはどういうことなのかについても考えさせられるような、ご意見をいただけたと思います。

委員：今お二方から出たように、アンケートの質自体の高さということについては、私自身も大変高いものであると思います。その上で、そもそも論的な質問になるかもしれないんですが、このアンケートを取ることになった経緯といたしますか、位置付けをもう一度確認したいのと、それをどのように今後活用していくかについて、いわゆるPDCAのようにこのアンケートを活用するという位置付けにあるのか、あるいは定期的にこうしたアンケートを取ることで、定点観測のようなことをしていく位置付けにあるのか。要するにこのアンケート自体をどのように扱っていかれるのか、もう一度確認させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：このアンケートを取ることとなった経過については、検討会議でこれからの教育を考えるとときに、やはり子どもたちの声を聞くことは何よりも大事だろうというご意見をいただきまして、そんな中で、最初は我々指導室の方でアンケート項目もつくって考えるということをしてしようとしていたんですが、ま

たそこで、我々が考えるのではなく、子どもたちのニーズを拾って、そして質問をつくっていった方が良いのではないかというご意見をいただき、さらに、経験を重ねた子の方が、考える幅は広いのではないかというところで、峰山高校の生徒さんにご協力をお願いしました。生徒自身の経験を踏まえ、また、夢でもいいのであったらいいなと思う学校について、私達とワークショップをして欲しいということで峰山高校に出向き、生徒たちの声を聞いて、前回のまとめの中に入れてさせていただきました。その声をまたカテゴリーに分けて、質問を導き出して、今回、中学校3年生にアンケートを取ったという経過になります。

今委員におっしゃっていただいたように、この後、検討会で検討していただいて、京丹後市の教育を進めていくわけですけれども、やはりその途中途中で、しっかり子どもたちの声に耳を傾けていくということは必要であると思っておりますので、どう聞くかはまだこの後の検討にはなるかと思いますが、決して大人だけの声で進めてはいけないなということを、今回このアンケートを取ることで、私たちも実感したところですので、その点は大事にしていきたいと思っております。

委員：先ほど事務局からもありましたが、中学3年生の生徒たちにとって一番年齢の近い高校生の声から、アンケート項目を考えて、中学3年生が回答したことが大変意義の深いことだと思います。指導室の先生方に分析していただいた中で、「もっと私たちを見て、私たちを信用して、私達にトライさせて」という思いは、ぜひ、指導室の方から小学校、中学校、所長園長先生方にお話をさせていただき、それを必ず管理職が学校現場の先生方に落として、そしてそれを大事にした教育活動、実践をしていくことが本当に必要だと思います。管理職レベルでとどまらず、現場に落としていくということを、ぜひ行っていきたいと思っております。

座長：今後のことに繋がると思いますが、多分これを生徒さんたちが見たら、何か反応があるはずです。それがまたきっかけとなっていていろいろなコミュニケーションができてくると思いますので、そういうことを期待していくべきで、これで終わりではなくてどんどん流れが繋がっていくような形で、教育委員会、学校の先生と児童生徒さんたちとの関係がつけられていけば良

いのかなと感じます。他に何かございますでしょうか。

委員：大変良い取組で、教育委員会の皆さんも、これをおまとめになるのも大変だっただろうと思います。ポジティブに受け取っている前提で、より良く改善するために、私が気になったポイントをいくつかお話しすると、総じてポイントは高いのですが、ICT スキルの設問 6 から、設問 9、5…と数値が 3.5 を下回っている項目に着目すると、ICT の導入は GIGA スクールとして国の予算や自治体の力で、子どもたちに端末が整備されているにもかかわらず、少し低めに出ている結果になっています。また、「英語教育が充実した学校」が一番下位となっている点については、ELSA Speak の AI 機能の導入などは、夏頃にニュースでも拝見して、京丹後市としてすごく力を入れている部分だと我々は認識しているにもかかわらず、子どもたちは少し低めに、とはいえ総じて高いと思うのですが、この中のランキングでは低くなっているところを見ると、我々大人、教育委員会や学校として取り組んでいるところが、まだまだ学校現場にしっかりと根づいていないのか、子どもたちに伝わっていないのか、というところが少し心配としてあります。これは 9 月のアンケートなので、取組を打ち出しても、なかなか急にみんなが注目するといったようなことにはならないと思いますが、探究とか話し合いとか自分の意見を言えるというのは、ICT を使ったツールでのコミュニケーションというところにも繋がってくることを思うと、少し我々はここを受けとめる必要があると思います、教育委員会としてどういうふうに考えられているのか、お考えがあれば教えていただきたいなと思って質問しました。

座長：ありがとうございました。多分、今できてないことの方が数値が高くなるんだろうなと思います。これからこういうことをして欲しいという願いがより強くなっていて、やってくれている項目は数値が低くなる可能性はあるかなと思ったんですが、事務局はどう解釈されていますか。

事務局：今後しっかりと数値を見ていく必要があると思っておりますが、教育委員会が力を入れていることが、上位に入っているという見方もできると思う一方、もっと力を入れてほしい部分についての数値が上がっているを見る必要もあると思っております。外国語教育・ICT については、昨年度より力を入れてきたポイントでもありますので、そういった部分では、生徒も一定、満たされた

環境にあると捉えてくれているのではと考えております。

委員：京丹後市の学生さんたちの間で、こういった領域における意識がむしろ高まっているがために、もっとそういった環境が欲しいというニーズに繋がっているということもあるのかなと私は受けとめました。

委員：データを見ていると、1とか2と回答している生徒はかなり少人数なんですよ。アンケートの性質上見られないかもしれないんですが、同じ子が全部等しく1や2に付けている場合には、全体の意見というよりも個別指導の必要があるのかもしれないという点からすると、母数が400弱ということと考えると、統計的にはあまり意味のある12%、4%ではない可能性があるなと思ったので、おっしゃる通りでこれがすぐ問題ということではないんですけどもちょっと気にはしておきたいなと思ったところでした。ありがとうございました。

座長：ありがとうございます。いろいろな解釈ができると思いますし、生徒たちと一緒に解釈するということが大事かなと感じております。

私からも一点、学校の先生方にとっても当てはまることがあるかなと。「失敗OK・チャレンジできる学校」については、学校の先生方も本当にそう思っていないんじゃないかなと感じますし、「個人・多様性が尊重された学校」についても、学校で先生方も本当にそう感じているんだろうかという面が私はあるような気がしています。全てではないんですが、学校の先生方にとっても当てはまるようなところがあって、そういう項目を学校の中で、教育委員会も含めて議論をしていってもらいたいなと思います。特に「失敗OK・チャレンジできる学校」については、先ほどの委員のお話にも係わると思うんですが、学校の先生方がそう思わなければ生徒達も思わないだろうと思うので、そういった雰囲気はどうつくっていくかということ、あるいはそういった教育にチャレンジできるかについては、京丹後市全体で考えていくことも必要かなと思います。また、おそらくここで表現されている言葉は、いろいろな解釈ができますので、子どもたちと、それから教師や教育委員会の人たちが感じている、イメージしていることが多分ずれているはずですので、そういったことを日頃から意識しながら、少しでも共有をしていくと面白いし、ずれがなくなったら面白くなくなりますので、ずれもしっかり大事にしながら、し



っかり取り組んでいくということも大事なかなと思います。いろいろな観点から、これを分析したり議論の材料にしてもらえたらなと思っております。他、よろしいでしょうか。

それでは次の議事に移らせていただきます。「魅力ある学校づくり推進基本計画（仮称）」につきまして、京都府の取組ですので、京都府丹後教育局からオブザーバーとして来ていただいています、田中指導主事の方からご報告いただきます。よろしくお願いいたします。

## （２）魅力ある府立高校づくり推進基本計画（仮称）について

田中オブザーバー：全体に関しては、京都教育委員会教育改革室のホームページに資料がありますので、そちらの詳細を見ていただいた方がより分かりやすいのかなと思いますが、時間が短いので、ピックアップしながら話を進めさせていただこうと思います。よろしくお願いいたします。

本日の内容として、基本的な考え方、今後の府立高校の在り方、今後の入学者選抜の在り方という形で、進めていこうと思います。

まず、基本的な考え方としては、府立高校の果たすべき役割ということで、京都府の地理的な要因であるとか、人口の分布、特に北部では、いろいろな課題があると思うんですけども、そういう実情を踏まえつつ、府立高校をどうしていくかについての、教育委員会の目指す考え方です。その中に書かれている、すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かって生き生きと学ぶことができる高校を目指していこうというのが基本的な考え方です。南部と北部の実情であるとか、教育の質の確保、あるいは多くの生徒が入学する全日制の魅力、特に中学生に向けてどう打ち出していくのがポイントになったということでした。

まずは、丹後通学圏における普通科高校を挙げております。峰山高校は全日制普通科で、昔から変わらない形ではあるんですけども、高校改革の中で、宮津天橋高校宮津学舎・加悦谷学舎が単位制普通科という形になりました。同じように丹後緑風高校網野学舎・久美浜学舎も単位制になりました。久美浜学舎はいわゆる専門学科なんですが、普通科系の科目を置いているという形になります。これが普通科系専門学科というものです。今後の在り方とし

て、グローバル化やデジタル化社会の変容に対応する、あるいはリーダーの育成、普通科系専門学科においては、探究活動を進めていくこととしています。また、普通科の方でも魅力を出していこうということで、いろいろな形で取組がなされております。

職業学科については、丹後通学圏においては海洋高校の水産、宮津学舎の建築科、峰山高校の機械創造科は工業、網野学舎の企画経営科は商業、久美浜学舎のアグリサイエンス科は農業学科となります。総合学科としては、昼間定時制の清新高校があります。職業学科及び総合学科の設置については、募集定員の設定等の在り方を考えながら、海洋高校でも募集定員が減ったりということもありました。府立高校産業教育デジタル化事業費等によって、いろいろな実践的な産業、教育を職業学科では進めていこうというところではあります。京都府立大学附属高校科というのがありまして、農業科と林業課の分野で附属高校を設置する、これは今後進んでいく段階のところではあります。

配置の在り方として、北部地域では、府立高校が19校、私立高校が6校あるんですけども、実際、5クラス以下の高校が16校あって、6から8クラスが3校という形で、人口減に伴って非常に少人数のクラスになっていき、令和5年から17年にかけては、大体4から5クラス減少へ向かっていくという状況になっております。

中学生のアンケートが先ほどありましたが、同じようなアンケートを府教委がとっており、高校に中学生が望むこと、魅力と感ずるのは、行事であったり部活動であったり、あるいは人間関係というところもあって、それらはある程度の人数がないと、中学生が思っているような高校での取組はなかなか難しいということで、配置や役割の見直しがなされていく方向に向かっていきます。ですが、丹後においてはいろいろな特色を持った学校がたくさんありまして、その中で各校がスクールミッション、スクールポリシーを明確にすることで、中学生のニーズに合った高校をつくっていこう、一律の府立高校ではなくて、府立高校の中でも、普通科の中でも特色ある学校を、スクールミッション及びスクールポリシーを校長先生がリーダーシップを持って示していくことで、学校の特色、魅力化の推進が進められています。定時制、通信課程においても同様の取組がなされています。探究活動に関しては、いろ

いろな学校で進められてはいるんですけども、特にそれを担う地域コーディネーターの存在が非常に大きいです。私は加悦谷学舎に長くいたので、与謝野町と連携して、コーディネーターが入って地域と繋いでもらい、探究活動を進めていったという経緯がありました。京丹後においても、峰山高校でそういう取組がなされてきたと聞いており、コーディネーターの存在は、府立高校にとっては非常に大きな役割を担っています。

開放型地域クラブは、あまり根づいてないのかなと思うんですけども、宮津天橋高校で、かつては天橋リンクスという開放型クラブがありました。今は陸上競技とウエイトリフティングで、ジラソーレという加悦谷高校の時代から続けてきた開放型クラブがあります。具体的には、クラブが終わってから大体7時ぐらいまで、高校生が小学生や中学生に、先生も付いて陸上競技を教えるといったことが行われていました。私は海洋高校にも所属していた時があったので、海洋高校と網野学舎でもレスリングで続けられてきている取組です。こういった取組を今後拡大していこうというのが、部活動の地域移行に繋がっていく話になるのかなと思っております。

続いて、定時制、通信制課程の魅力化と配置についてです。丹後においては昼間定時制の清新高校がこれに該当し、京都市内の清明高校を参考として、フレックス制の学園として清新高校は設置に向けて進められてきました。できるだけ、生徒のニーズに合わせて進めていくことを目指しているところです。通信制課程でも、ICT を活用した学習の新しい形を目指していく取組が進められています。

全日制高校においても、新しいスタイル、先ほど申し上げたような、全日制の単位制普通科も視野に入れて、新しい全日制の形が進められています。北部の方では今のところないと思うんですけど、2学期制など、いろいろな新しい形で単位修得を認めるスタイルが、今後、子どもたちのニーズに合わせて進められていくところです。あわせて、特別支援教育の充実も目指すところで、普通科でも、特別支援は当然必要になってくるので、特別支援学校だけが対象ではなくて、普通科、あるいは職業科の中でも、特別支援の充実というのは必要になってきております。

また、京都府公立高等学校協議会を置いて、生徒受入対策等を協議していく

こととしています。そして、学校を残すためにどう施設を整備するのか、どう魅力を示していくのか。職業学科、特に海洋などは、寮の整備がある下宿の整備の施設の充実が必要になってきております。

入学者選抜制度については、京都府教委、京都市教委と連携して、公立、中学校、高校の代表がそれぞれ入試に対してお互いにいろいろ意見を出し合い、検討を進めること。府教委と、市町の教育委員会がどう連携しているかが重要になります。

以上が、府教委が目指す高校の魅力化の全体像になります。詳細につきましては、またホームページ等で確認していただければと思います。短時間でしたが以上です。

座長：どうもありがとうございました。せっかくの機会ですので、何かご質問等ございましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員：質問というか感想ですが、京都北部へは移動距離も長くなりますので、例えば久美浜地域にいる子どもが宮津まで行こうと思うとなかなかの距離があると思います。学校の入試による選抜を経るので、学力のレベルはまとまっていくとは思いますが、例えば遠隔授業で、もちろんリアルが非常に重要なので、リアルの場をゼロにしたいと思っているわけではないんですが、例えば数学の授業で、知識を享受してもらうタイプの授業であれば、遠隔による知識享受も十分意味があると思います。授業を受けるのにわざわざ1時間、1時間半使って学校に行くとなると、保護者の負担も含めて大分しんどいですし、京丹後地域に住んで子どもを育みたいと思う保護者からすると、どの地域にいても近くの学舎に行けば、子どものレベルに合った授業を遠隔である程度受けられる、といったような取組も、実証的に行うことにはなると思いますが、今後の未来という観点で考えると、京都府さんの方でご検討いただけないかなと思って聞いておりました。

座長：ありがとうございました。遠隔教育の可能性っていうのは今議論されていませんでしょうか。

田中オブザーバー：実際に遠隔システムを使って遠隔授業しているのは、天橋高校の宮津学舎と加悦谷学舎、丹後緑風高校の久美浜学舎と網野学舎です。具体的には、授業の中に遠隔授業を取り入れて、宮津で先生が授業しているのを加悦谷の生徒

が聞く、逆に加悦谷の先生の授業を宮津学舎で聞く、そういった個別の学校での取組はなされておりますが、全体での取組になっていくためには、今後いろいろな課題があると思いますので、機会があれば検討したいと思います。

委員：今日は大学の先生も沢山いらっしゃっていますが、私も大学で講義をした時に、ハイフレックスでやる時には、それなりの設備がないと、普通の授業をただ映すだけでは、あまり良い授業が伝わらないんですよ。と考えると、やはり京都府として、ハイフレックスの授業をするための投資を一定行って、こういう環境を整備していかないといけないんだという形で重点的に取り組まないと、学校の取組でよろしくというのは、なかなか環境整備的に難しいのかなと思いますので、そういったところにもぜひお力をいただけると良いのかなと思いました。

座長：府全体で考えてほしいということなんだと思うのですが。委員お願いいたします。

委員：私の質問は非常にシンプルで、前回までにこの検討会で中間まとめがされています。それについて府教委がどこまで把握されていて、どういうふうに思っているらっしゃるのか。特に、この参考資料2のプロジェクト3のところを見てもらったらわかるんですけど、中高連携の促進に向けての制度検討、中高連携の在り方、それに伴った制度改正について、一応、この検討会では、見方によっては相当チャレンジングに見えるかもしれませんが、そういった提案をさせていただいておりますので、それについて、どういうふうに思われているかという話をできる範囲で結構ですので、よろしく願います。

座長：本庁の方にも報告されているんじゃないかと思うんですけど、その辺の反応とかもし何かありましたら是非お伝えいただければと思います。

田中オブザーバー：局の方では把握できてないのが実情ですので、また機会があれば、聞いておきます。

教育長：これは濱副市長と私が、府教委の高校教育課や関係課と、一度この中間まとめの素案の段階で、資料をもってご説明に上がっているところです。反応としましては中高連携というところについては、大変興味深く聞いていただきましたし、普通科の中に市営学科というところについては、なかなか高いハードルがあるなというご認識ではありましたが、強く連携していくこ

とによって、先ほども田中指導主事の方から説明がありましたけれども、北部は普通科が、学校自体に特色を出すのは広域過ぎて通う範囲が難しいので、学校の普通科の中に特色あるものと組み合わせた形でつくっていくというところについて、府の検討会の中でも話し合われておりましたので、そういうところでの検討の中に、本検討会で検討している内容については、一緒にやっていける側面がたくさんあるんじゃないかというような認識では一致しているところです。

座長：ありがとうございました。委員、ご質問ご意見をいただきましたら、ありがたいと思います。

委員：2点ほど質問というか、ちょっと提案に近いものもあるのかもしれないんですけども、まず感想としては今後の府立高校の在り方の方向性と、今議論してきている京丹後市の教育の方向性、全てではないにしてもかなり方向性は近いということを見て、安心というか今後に期待できるなというふうに感じたというのが前提であります。

その上で1つ目は、普通科の在り方のところに関しても、グローバル化やデジタル化に対応したリーダー人材の育成等も含めて、場合によっては新しい普通科の設置も検討していくと書いてありましたけども、そういった方向性は、まさに今までの京丹後市の話にすごく繋がってきていると思っています。その時に、今後どのような形でこのスクールミッションだとかそれに基づく学科だとか、カリキュラムの在り方みたいなのを検討していくのかということところが一つ目の質問になります。というのも、スクールミッションや、新しい普通科の設置に関しても、中教審で出した答申に、「地元の市町村とも協議しながら、それを設定していく」というような文言が入っていたかと思いますが、京丹後市の方でこれだけいろいろ議論してやってきた中で、京丹後市内にある府立高校のそういった在り方に関して、府が設置している協議会に市の方が入って一緒に議論すべきなのか、もしくは市の方で、当然府の方と協議しながら、市内の府立高校の今後の再編というよりは、より特色化、魅力化に向けた在り方というのを今後協議して進めましょうということだと思わんですけども、どういった協議の進め方が良いかというところで、もしお考えのものがあれば伺えたらというのが1つ目です。

2つ目は、今後の府立高校の在り方、5学校施設等の整備で書かれていたんですけども、職業学科設置校では意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できる教育環境を充実させるため、全国からも生徒を募集できる制度など、特色ある施設等の整備を推進すると書かれているんですが、これは京丹後市で考えていくと、必ずしも職業学科設置校でなくてもよいのではないのでしょうか。場合によっては新しい普通科を設置して、STEAM やアントレプレナーシップであったり、今回委員で参加されているような方々であったり、京丹後市で実践されているようなものをしっかりと進化させて、高校教育と繋いでやっていくとなれば、全国、場合によっては海外からでも意欲ある生徒が目的意識を持って来るといえることがあるかもしれないと考えたときに、職業学科設置校に限らず、新しい普通科も含めた形で、全国からの生徒募集や寮の整備の検討ができるように、府立高校の今後の在り方も検討した方がいいのではないかと思ったので、その辺りで可能性みたいなものがあれば伺いたいというのが2点目です。

座長：ありがとうございます。では1点目、検討のプロセスのところで、京丹後市と協議するという機会はどうなるのかという点について、いかがでしょうか。

田中オブザーバー：正直、具体的なところはまだまだだと思います。実際にできているかどうかというところも、把握できる状況にはありませんので、またわかる範囲で聞いてみたいと思います。

座長：いろいろな市町があるので全部は大変かもしれませんが、できるだけ聞いておかないと上手くいかないところもあると思いますので、是非ご検討をいただければと思います。2点目、施設の面で、職業学科に限定せずに、普通科も含めて特色あるものをしていくには施設の充実は非常に重要ですけどその点はどうか、というご意見に対してはいかがでしょうか。

田中オブザーバー：私の経験からお話させてもらって申し訳ないんですけども、海洋高校に初任から長くいまして、海洋高校は、水産系学科が高校の中になく都道府県からは受け入れられるということで、地元の生徒たちよりも、他府県もしくは京都市内から来る生徒が多いです。そのために下宿の整備、校内の寮が整備されていました。もともと敷地の中に寮があったんですが、それでは抱えき

れないので、寮の部屋をどんどん小割にしていって増やしていく、ミーティングルームも小部屋にしていって、生徒を受け入れようという取組がずっとされてきました。下宿に関しても、地域の方と相談をして、何とか下宿を受け入れて欲しいと声かけをされてきました。教員の方も、週に1・2回、寮と一緒に泊まったり、下宿訪問を毎日行っていました。そういった振り切った取組ができないとなかなか難しいのかなと思います。設備の面でも、人的な面でも、もちろん法的な整備の面でも、思い切った改革というのが必要なのかなと思います。その辺りも、府教委のお話を受ける機会があればまた、現状を伝えてみようと思います。

座長：ありがとうございました。高校の立場で、もし何かご意見やご要望等ありましたらご発言いただければと思うんですがいかがでしょうか。

委員：府の方が、スクールミッション、スクールポリシーの方を今年中には一定発表するということになりますので、それを受けて、本当に各府立高校が、どのような特色を出していくのかという大きな流れが始まるのかなと思います。当然、学校再編も絡んでいきますので、生き残りをかけた、本当に真剣な形が始まるかなと思っています。その点で考えたときに、京丹後市にある府立学校については、京丹後市教育委員会さんを中心として、こういった、本当に全国に誇れる取組を進めていらっしゃるの、是非その流れを府立学校にも繋げて、全国から注目されるような取組をしなければならぬというか、したいと本当に感じています。Kyotango Sea Laboの取組を高校の中で取り組ませれば、本当に全国から京丹後に行きたいという生徒が来るんじゃないか、そんな期待を感じさせていただきました。

委員：今の委員のコメントを受けて、せっかくですので府の教育委員会さんの方でも何か考えていただけるといいのかなと思ったのが、スクールミッションなどを出す前に、少なくとも京丹後市はこれだけやっていますので、立地自治体の声をちゃんと聞くというか、そういった場も持っていただけるといいのかなとも思いましたし、京丹後市の取りまとめたロードマップでも、今年度の構想の中高のところに関しては構想の具体化、来年度はカリキュラムの検討となっていて、そういった時に市と高校だけの協議ではなかなかできない部分があると思いますので、できれば市と高校そして府で、一緒に検討で



きるような体制や配慮をしていただけると、このロードマップが絵にかいた餅じゃなくなるのかなと思いますので、今後ご検討いただけるとありがたいなと思いました。

座 長：ありがとうございます。具体的にご意見をいただきましたと思いますので、是非府の方にもお伝えいただければありがたいと思います。今委員がおっしゃっていただいたこととも関連するかと思いますけれども、財源の問題と行政体制の在り方、またロードマップとも関係してこようかと思いますので、議事の3、財源確保及び行政体制の在り方について進めたいと思います。まず事務局からご説明をお願いいたします。

### (3) 財源確保及び行政体制の在り方について

事 務 局：（事務局から説明）

座 長：ありがとうございます。今日は少し専門的な、行財政のところの先行といったところでありましたけども、何かご質問がございましたら出していただければと思いますがいかがでしょうか。

財源確保のところですけども、調査研究をした上で、恒常的にクラウドファンディングをやっていくってということになりますね。そういう意味では、選定にもなりますけども、評価を受ければ、財源は得やすくなるかなと。賛同者が増えるということになるかと思うので、良い教育をして宣伝していけば、こうした取組はうまくいっていくんじゃないかという印象を持ちました。

委 員：クラウドファンディングについては、非常に私不勉強なんですけど、今おっしゃったように継続的にクラウドファンディングで教育予算を確保するということの、ベンチマークできるような事例が今あるのかどうか、是非、もしご存知の方がいたらお聞きしたいなと思っております。

濱 副 市 長：教育をしっかりと運営していくために必要な予算は、市が予算編成することが大前提だと思っています。それにプラスアルファで、より子どもたちの学びが良くなるように、財源を確保していこうという一つの手段がクラウドファンディングであると認識していきまして、例えば、すごく尖ったプロジェクトをやるために、クラウドファンディングをしますとか、または凄いスターを呼ぶために、クラウドファンディングをしますというようなことはあり得

ると思います。ただそれは1回きりだと思うので、そうではなくて、基金とは言いませんけれどもプールして、学校現場の先生方が子どもたちの学びに必要なだと気付いた時に使えるようなお金ですとか、そういったことのためにというのが、大きな思想ではあるんですが、それは本来難しいところだと思っています。そういったところに訴求するためにはどうしたらいいのかとところを、これまでの事例なども一般化、抽象化しながら、方法論として少し調査研究をして確立できればなと考えています。

委員：ありがとうございます。これが成り立ったらとても美しい世界だなと思いました。

座長：多分これは早いもの勝ちですね。一番初めにやったところが成功すると思うので、そこをしっかりと頑張っていけないといけないかなとは思いますが。他いかがでしょうか。

委員：行政体制の充実に関してのスライドを見ての提案ですが、今年度中高連携を進めるためには府教委割愛職員は小学校・中学校籍の職員だけでなく、高校籍も1名は必要でないでしょうか。委員の皆さまの組織・団体から職員を京丹後市に出向していただくというのも手かもしれないですね。

教育長：確かに委員の言われるとおりで、こちらでもそういう検討はしておりまして、こうしたプロジェクトを進めていく上では、今の体制的にはなかなか厳しい側面もあって、府の高校の先生方の割愛ということで、一緒に働くことができれば一番望ましいかなと思いますが、人事の関係が府教委ですので、府教委と検討していくというような段階だと思っております。

委員：ありがとうございました。是非、府教委の方にも要望していただいて、ご検討していただけるといいのかなと思います。

座長：ありがとうございました。行政体制のところも本当に、学校教育課が仕事が多くなりすぎないかなと心配になりますので、現体制でここまで本当になるかなということもご検討いただいて、京丹後市の中でも、もう少し学校教育課に人を配置できるようなこともご検討いただかないといけないかなとこの表を見て感じました。

では、議事4の遠隔教育特例校制度の申請状況についてご説明をお願いいたします。

(4) 遠隔教育特例校制度の申請状況について

事務局：(事務局から説明)

座長：何かご質問やご意見ございませんでしょうか。

委員：昨年1年間、丹後緑風高校網野学舎・久美浜学舎の間の遠隔授業を少し見ましたので、そこからの意見ですけれども、一つは、この遠隔システムというのが、ここ数年で大変普及をしています。そのシステムを習得するためには、一定の研修とか、時間がかかるわけなんですけれども、どんどん技術が発達していくので、何年か後には更新をしなければならないということが起こります。その辺り、他の先進地域の事例等も参考にされながら、出来るだけ長く持つシステムを何とか導入いただけたらと思います。

座長：委員、中学校の立場で、どう思われますでしょうか。

委員：具体的な中身を聞かせてもらったので、現場としては、凄くありがたいなと思います。特に今技術などは、専科の教員の方は京丹後市内で数名で、あとは体育の教師が、技術を兼任しながら授業をしていくという実態があって、その部分にかかる負担が大変大きい。その中でも、プログラミングに特化して、専門的な指導が生徒たちにしていただけるのは有難いことだと思いますし、これがさらに広がっていくと技術の授業、それから、学校の先生たちの教育が広がっていくなと感じます。

座長：ありがとうございます。委員、保護者の立場から、遠隔でこういう専門的な方に指導いただけることについては、どのようにお感じになられますでしょうか。

委員：確かに、数学の先生が技術を教えておられるというのは聞きますので、専門的な知識を持った先生に教えていただけるのは非常に有難いなと思います。少し感じたのが、弥栄中学の3年生がなぜ選ばれたのか、3年生は受験があるので、もしかしたら保護者の方は、逆に不安に思われたりしないかなと思いましたので、何か理由があったらお聞かせいただきたいです。

事務局：ちょうど中学校3年生の履修の中身が、この内容であるというところが一番大きいので選ばせてもらっております。なぜ弥栄中学校かについては、まずは小規模の学校で一度試してみて、そこから横展開ができるのが一番良いの

かなということで選ばせてもらいました。

座長：ありがとうございます。保護者の方に安心してもらえることが大事ですよ  
ね。他いかがでしょうか。

事務局：補足ですけれども、小規模だからやってもいいという話ではなくて、やっぱり  
遠隔の特例特性として、ちゃんと目が行き届いているのかっていうのが議論  
になるんですよ。そういった時に小規模な学校であれば、しっかりその  
教室配信を受ける側にも先生を配置していますので、そういったところでし  
っかりと子どもたちに目を行き届くような形で実証して、それがうまくいく  
ようであれば、さらに広げていくというような考え方になるかなと思います。

座長：大事なことはそういう体制をつくるということと、どういう方に講師になっ  
ていただけるか、その人材がとても大事になってくるかだと思います。制度的  
には臨時免許状になるのか、特別免許状で考えていくのか、そのあたりは、  
ここで議論することではないかとは思いますが、できればきちっとした形  
で免許状というのを出して、担当される先生もその意識を持って臨んで  
いただくようなことが望ましいかなというふうには思っております。その辺、  
制度的にどうしていくかというような問題は、市としても国の方にも働きか  
けてもらえたらというふうには感じました。こういうことが広がっていけば、  
通常の中学校の先生ではない、より専門性の高い人にも遠隔で指導を受ける  
っていうこと可能性も広がっていきますので、そういうことも活用するとい  
うことで取り組んでいかれることがいいかなというふうに思います。

予定していた議事は以上ですが、全体を通しまして感想とかご意見ありまし  
たら、ご発言いただきたいと思うんですが。委員、今日お聞きになって、何  
か感想でも結構ですのでご発言いただけますでしょうか。

委員：資料も十分準備されていて、私もとても勉強させていただきました。最初の方  
のアンケートのところで、ちょっと質問しようかなと思ったんですけども、  
一番生徒たちが望んでいることが、多様性が尊重された教育というか、そう  
いった学校を望んでいるところが第1になっているというのが、まさかそんな  
ことはないと思いますけど、今現状、そこが失われているところじゃ  
ないんですよ、っていうことがちょっと気になりました。そんなことは  
絶対ないと思いますけど。

事務局：教育委員会としてはそのようなことはなく、より一層の多様性を重視した教育が進んでいく一つの指針になるのかなというふうに捉えているところです。

委員：そのように思っております。あともう1つ、府立高校の在り方の今後について、地域との連携のところのお話の中でコーディネーターの体制整備っていうのがあったかと思うんですけど、やはりそういった専門の方というか、コーディネートする方の存在がすごく大事だろうなと思って、是非しっかりと取り組んでいただければというふうに思います。合わせて通信制のところの遠隔教育のシステムを、新たに構築するといったところは、先ほど委員の方からもありましたが、授業が相手にうまく伝わるようなシステムをつくっていただければなと思います。

座長：ありがとうございます。委員いかがでしょうか。

委員：アンケートの結果を見て ICT とか英語教育に関して生徒のちょっと意識が低い感じが出ているんですが、京丹後市さんがやっていることはかなり最先端で、他はどこもやってないことですので、多分先生方も不安だと思いますし、その不安が多分生徒にも伝わっていると思うし、その生徒自身が英語と日常の探究というところがうまく繋がっていないところがあるので、その辺をうまく繋げるような授業展開をしていったら、すぐアンケート結果が変わってくると思いますので、私自身も協力させていただいておりますので、面白い授業をつくっていきたいなと思っております。今後ともよろしく願います。

座長：どうもありがとうございました。あと、オンラインの方で、ぜひ最後にご発言されたい方いらっしゃいませんか。

委員：さきほど座長がご指摘されたポイントですが、今回先生方が実行された生徒さん向けのアンケートは高校生とのワークショップの回答をもとに中学生向けに作成したということで、座長のおっしゃる通り、これを起点にどういった対話が始まるのかというところが、非常に興味のあるところです。具体的にどのようなタイムラインで実行なさっていくのか、次回で構いませんので、伺わせていただければと思います。興味関心を寄せて楽しみにさせていただきます。

座長：ありがとうございました。次回までに、どういう動きがあったかというのを

ご報告いただければというふうに思います。では、委員お願いいたします。

委員：今日は京都府教育局から田中さんも来ていただいているので、前回までに中間まとめという形でこの検討会の考え方を示してきているということもありますので、先ほど府立高校の在り方についてのご説明もありましたが、ぜひこの検討会における内容を重く受けとめていただいて、今後の府立高校の在り方に反映させていっていただきたいと思います。これは多分座長も、後からきつと言ってくれると私は信じておりますけれども、この委員の皆様方もそうじゃないかと私自身は思っております。

地域の将来を担う人材育成の観点から、この検討会におきまして、隣の福井県若狭高校に視察もさせていただいておりますが、今月末の土日、28・29日に、隣の福井県におきまして、全国産業教育フェア福井大会が開催されます。そこにおきましては若狭高校を初めとした全国のマイスター・ハイスクールの指定校が発表会を予定しておりますので、もし興味を持っていただいている方には、近いということもありますので、是非その産業教育フェアの高校生の発表を聞いてもらえればなと思います。特に私は府教委にぜひお願いしたいんですけど、と言いますのもさっきのお話を聞いていて、田中先生は海洋高校にいらっしゃったということで、若狭高校も海洋学科なんです。マイスター・ハイスクールの指定を受けて、まさに先生がおっしゃっていたようなところの不足しているところを、文科省の制度で手を挙げて補っています。来年度のハイスクールの予算制度は横展開をどうしていくかという話で、まだそのマイスター・ハイスクールの普及がされていないような都道府県に対して、いかに働きかけをしていくか、実は京都府もその対象ですので、ぜひ私は京都府には、産業教育フェア福井大会に来ていただいて、来年度予算でそういったことも検討して、できればご回答いただければというふうに思います。

座長：ありがとうございました。

委員：本日もありがとうございました。私は初めて直接ここに来させていただいて非常に光栄であるとともに、まだちょっと市内は歩いていませんので、明日の午前中までフィールドワークをしようかなと思っております。

2点ありまして、今日中心的に扱われる内容ではなかったんですが、今後の

この4つのプロジェクトとロードマップを拝見しておりまして、ここからの動きは大変楽しみだなと思います。あわせて、弊社としては、そのプラットフォームの部分にいろいろ想像力を働かせるところがありまして、探究的な学びを行うときに、いかに生徒さんたちを支援するライトパーソンにつながられるか、いろいろな角度からその知見をシェアできるかが、プラットフォームのコーディネーターの能力として非常に重要ななと思います。非常に多岐に渡る階層のものを取り持つ方々になるのであろうなと想像すると、どういところからどういところまで、こういう時間軸で、どういボリュームでこれを処理していくことになるのかという、そういったところを計画が進むと良いなというふうには考えておりました。弊社もいろいろな学校で、これに当たるような動きをしているんですけど、探究的な学習の場合、非常にこの工数爆発が起きやすいといえますか、でもやっぱり生徒さんの要望には応えたいとなりますので、そこの熱意と働いてくださる方の能力発揮が良いバランスなると良いだろうなと想像しております。

あともう1点は感想なんですけど、弊社がいろいろな自治体さんと今年度させていただいている中で、千葉県いすみ市さんのプログラムが終わったばかりです。いすみ市は九十九里浜の近くにありまして、海の環境であるとか京丹後市さんに似ているところがあると思えました。私も中高生と一緒にフィールドワークしたりとかしながらいろいろ質問したんですけど、まちの方が言っていた素晴らしいこと、自然が豊かで、素敵な食材があって、人が温かく、風光明媚であるみたいなのは、各地どこでも一緒じゃないですかって生徒が突っ込んだんですよ。それを超えていすみ市さんの魅力は何かありますかって言う、よく聞いたなあという質問でしたが。でも市役所の方の答えが素晴らしくて、「そうなんです、日本の地方などどこでもあるけれども、でもその良さを地元の方が確信して他の人に語れているかどうかの違いだと思う、いすみ市はそれができる」というふうにおっしゃっていて、素晴らしいなと思えました。そこまでいくとやはり、学びによって地域の皆さんの主観がどう育つかということで、客観データも競争の話ではないんだなということも改めて思いまして、そういった強い主観みたいなものを育てるといのも一つ、教育の役割なんだなあということも改めて思ったものですから、

京丹後市の中でもまた、我々も引き続き貢献できればいいなと思いました。

座長：ありがとうございます。委員に聞きたいのですが、生徒のアンケートを保護者の立場でどういうふうにご覧になっているのか、感想でもいいので、アンケート結果についての感想をもし良かったらお聞かせいただけないでしょうか。

委員：アンケートの細かい結果というよりも、今日1日聞いて感じたことなんですけど、私元々京都市出身で今京丹後市民になって17年、ここで子育てをさせていただいています。職場でも半数ほどが京都市内から単身赴任で来られている方がいるんですが、中心は京都市内で、どうしても丹後の方は置き去りにされているイメージがすごくあります。先ほど府教委のお話を聞かせていただいたんですけど、まだ府の方に京丹後市の思いがちゃんと届いてないのかなってというのがすごく感じました。子どもさんの意見ですごく思ったのが、私たちをもっと信用してトライさせてくれってという言葉が、本当にそうだなと思っております。私も今日は保護者代表として参加させてもらっていますが、仕事で小中高校生の方とご一緒する機会がありまして、先日も中学生や高校生にちょっと仕事をお手伝いしてもらおうということがありました。短い期間で集中して仕上げてくださいったところもあれば、ちょっと残念だったのが、この期間までにこれをして欲しいですとお願いしたんですけど、先生の方が、勉強の方が忙しいから私の方でちょっとストップさせています、と言われた学校があって、間に合わなかったということがありました。私も子どもがいますけど、子どもって私たちが思っている以上に凄く大きい力とか若い力が本当にすごくて、集中したら本当にあっという間につくり上げるというような力があるなあと思っていたので、間に合わなかったところはすごく残念でした。先生も先生の判断でストップさせずに、生徒さんにらせていただいたら、そこもまた何か開けたのかもしれないなとすごく実感しました。子どもさんの力を信じて、もっともっというろいろなことをさせてあげることが大事かなと思いました。私は専門的な難しいことわからないんですけど、もうとりあえず押せ押せ、もう根性だけで進んできているようなところがありまして、何回も何回も同じことを教育委員会さんの方にも訴えさせてもらっているんですけども、そのように丹後教育局の方でも、もっと市の



方にガンガンとアピールしていただいて、どうか実現するとういなど思いました。どうぞよろしくお願いします。

座長：ありがとうございました。多分今のような思いをアンケートに生徒たちは出しているんだろうと思うんですね。そういうのを非常に感じられるアンケートになっていたと感じました。今日は田中指導主事さんにもいろいろと、ちょっと耳の痛いこともいろいろな方が仰ったかと思うんですけども、私が感じるのは、京都府教委が京丹後市をもっと活用すべきじゃないかなと。つまり、高校の魅力化っていうことに取り組もうとしている市町があるわけだし、それを活用してくれたら他の市町にも広がっていくし、それが高校に繋がっていくと思いますので、府の戦略として、京丹後市の動きっていうものを活用して、うまくそれを形にしてもらえれば、京丹後市にとってもありがたいですし、多分、府の方針を示す上でも非常に良い方向性になるんじゃないかなというふうには感じます。そういう戦略を府としても持ってもらえると非常に良いなと私は感じましたので、是非よろしくお願ひしたいというふうに思っております。非常に今日もいろいろな活発なご意見をいただきまして議論ができたかなというふうに思います。非常に私も勉強になりました。次回、1月になろうかと思うんですけども、次回までにもいろいろな動きがあると思いますので、そういった動きも合わせまして、最後のまとめの方にいければというふうに思っているところです。それでは何か連絡事項がありましたら事務局からお願いしたいと思います。

事務局：資料5に書いておりますとおり、今後のスケジュールということで、いよいよ第6回最後になります。1月16日に最後の検討会を予定しておりますので、皆さん大変お忙しいと思いますが、ご予約をお願いいたします。

座長：ありがとうございました。では進行の方を事務局にお返ししたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局：委員の皆様、今回も貴重なご意見をいろいろとありがとうございました。竺沙座長、進行の方大変お疲れ様でした。まず丹後教育局の田中指導主事様には、本日は府立高校の今後の魅力ある高校づくりということでお話をいただきました。今後の方向性を、委員の皆様と共有ができて大変良かったと思います。また各市町の方にも来ていただけると聞いておりますので、そこでま

たいろいろと我々の方からも意見をお伝えしたり意見交換させてもらえるというふうに思っております。オンラインで参加の委員からチャットでご意見やご助言もいただいております。京都府もですし、いろいろな組織団体からも、体制の強化というところで検討してはどうかといったところでしたので、そういった幅広い視野で検討していきたいと思えますし、助成制度の紹介もいただいておりますので、その辺りも含めて参考にさせていただきたいと思えます。第5回新たな教育人材育成の在り方に関する検討会、これをもちまして終了とさせていただきます。次回は最後のまとめということで、来年の1月となりますが、ぜひよろしくお願ひしたいというふうに思えます。委員の皆様本日は大変お疲れ様でした。どうもありがとうございました。